

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691900017		
法人名	医療法人 守章会		
事業所名	グループホームリリーハウス		
所在地	徳島県三好郡東みよし町中庄1011番地の3		
自己評価作成日	平成27年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームが開所して、2年目である。吉野川に近く、自然豊かである。ユニバーサルデザイン適合証交付を受け、安全で安心し、快適に利用できる施設である。法人の運営する医療機関と連携を図り、24時間体制である。新卒者を受け入れ、育成を行っている。取り組み方針である、スタッフ1人ひとりが高い志をもち、利用者中心の介護をしている。施設の環境保全・衛生管理にも気を遣い、入居様に日々の生活を気持ち良く送って頂ける様、取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅地や幼稚園、公民館等の立地する環境に位置している。建物は、身体障がい者用のトイレや手すりなど、多くの方が使いやすいようなユニバーサルデザインを取り入れている。職員は、事業所の環境整備や衛生管理に特に力を入れている。事業所では、理念に応じた利用者中心の介護を行うことができるよう、職員同士が意見を出し合い、チームワークを高めながらサービスの質の向上や改善に取り組んでいる。また、地域住民から事業所を理解してもらって円滑な交流を図るために、職員が自治会の行事や活動に参加・協力するようにしている。職員は、利用者と寄り添う時間を大切に捉えている。日頃から、利用者と職員で散歩や外気浴を行うなどしていることから状態の安定にも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様の尊厳と自立。利用者様中心の介護。生活を共有して寄り添いの介護。」を取組方針として、管理者、職員は実践に向けて取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を、管理者が中心となって作成し掲げている。職員は理念を共有し、日頃の支援に取り組んでいる。全職員が理念を支援の原点として捉え、日々の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春祭り、秋祭り、の清掃、自治会参加、地域の溝掃除、防災炊き出しなど、参加させていただき、顔見知りになっています。	事業所として地域の自治会に加入している。利用者と職員は、地域の祭りや運動会に参加している。職員は、地域の用水路の清掃活動や防災訓練の炊きだしを手伝っている。近隣の保育所の子どもの来訪を受け入れるなどして交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との認知症に対する支援方法の理解等をお互いに深める為、運営推進会議や勉強会を通じ、事業所として活動に取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、地域住民の代表、市の職員、他事業所、他事業所からの出席参加があり、サービス内容など報告を行い、意見交換を行っている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。地域住民の代表者や外部の事業所職員、町担当者、社協職員等の出席を得ている。会議では、利用者の状況や報告を行っている。出席者から意見や提案をより得られるよう、運営推進会議の機会に運営等に関する情報提供を行っている。しかし、利用者や家族の出席を得るまでには至っていない。	日頃の利用者の生活を分かりやすく伝えることができるよう“リリーハウス新聞”を発行し、利用者や家族に配付している。しかし、事業所への意向やケアに対する希望を十分に把握したうえで、運営推進会議の機会に話し合っているとはいえない。今後は、これまで以上に利用者や家族などと話し合う機会を設けたり、職員間で検討したりして、利用者や家族との関係を深め、さらなるサービスの質の向上に取り組まれるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターなど、窓口に行き、報告、連絡、相談を行い、指示を頂き、サービス改善に努める	管理者が中心となって、町担当窓口や地域包括支援センターなどの関係機関を訪問し、事業所の取り組みや活動内容を話し合うようにしている。また、利用者への対応に困難な状況等が生じた際には、そのつど、連絡をとるなどして協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを原則としており、やむをえなく、身体拘束をしなくてはならないという利用者様も今の段階では居られない。	月1回、全職員で身体拘束をしないケアに関する勉強会を行っている。課題等が生じた際には、全体ミーティングを開催するなどして検討している。職員は、利用者の心身の状況を理解し、散歩をしたり、見守りや寄り添う時間を増やしたりして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングを行い、職員は虐待のない介護に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を参考に勉強会を行っている。入所時には家族様に「権利、義務」の説明を行い、同意を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には必ず、重要事項の説明を十分に行い同意を得ている。疑問点などあれば詳しく説明を行い納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とのコミュニケーションの中で不満や要望があればお聞きし、職員会議を行い、問題点を早急に解決している。	事業所では意見箱を設置している。家族の来訪時に、利用者の状況を説明したり、事業所への意向等を聞いたりしている。ミーティングの機会を設け、出された意見や提案について職員間で話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に介護現場に居る為、職員は意見や提案などが伝えやすい。管理者は個々に必要に応じて、面談したり職員の指導を行っている。	管理者は、現場で職員とコミュニケーションを図ることを大切に捉えている。日頃から、管理者は、職員の意見やケアに対する思いを聞くよう努めている。朝・夕の申し送りや業務日誌等からも、職員の意見をくみ取り、一人ひとりの意見に耳を傾けて運営面に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者は職員がやりがいのある、働きやすい状態にするため、人事について、配属に気をつける。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒者を受け入れ、社会人としての育成を行っている。研修では介護実践者研修等に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修などの、実習生を受け入れ、交流を深め、職員とのつながりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談を受けると、家族様、本人様の話を十分傾聴し、施設の雰囲気を理解してもらおうと努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様と話し合い、共同支援ができるよう、心がけ、信頼関係を築くよう努力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様、本人様の希望で、他の介護サービスを紹介している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を一緒にたたんだり、昔の風習など教わったりしながら、介護との関係を作り、共に過ごしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様が不安を感じているときは、家族様にも協力してもらい、支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の知人など面会に来られた場合、面会簿に記入して頂き、自室で話し、過ごしていただいている。	利用者と職員は、家族等に宛てた葉書を郵便局に出しに行っている。利用者の希望に応じて、知人や友人が居室で宿泊することができるようにしている。また、利用者と同じ食事を用意したり、管理者が記念撮影をしたりして、心地良く過ごすことができるよう工夫している。事業所は、知人や友人を快く受け入れている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が気持ちよく生活できるよう、テーブルの配置にも気を付け「アコーディオンのつい立」などを利用したりして調整を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた利用者様のサービス内容は活用できるよう引継ぎを行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とのコミュニケーション時、内容や表情の変化に素早く気づき、快適な生活スタイルが保てるよう、努めている。	職員は、日頃の利用者との関わりのなかで、一人ひとりの意向を把握するよう努めている。職員は、利用者の言葉や表情、行動を詳細に記録するようにしている。それらの記録に基づいて、職員間で利用者の思いや意向の把握を共有し、より良い支援の実現に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃から、コミュニケーションを通して、生活歴をお聞きし、介護に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活スタイルを把握し、本人様が出来るような事を発見し、介護の活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に基づき介護計画書を作成し、心身状態に応じた計画書の見直しを行っている。	介護計画は、利用者と家族の意向を把握したうえで、職員が理学療法士、看護師の意見や助言を取り入れて作成している。月1回、職員間で介護計画の実践評価やモニタリングを行っている。利用者の心身の状況変化に応じて、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や申し送り時からの報告で問題点を把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	藤内病院からの看護師による、健康チェック、看護師からの医療についてのマニュアルを定期的に配布して頂き、介護に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	3月ひな祭りには、利用者様と地元の保育所を訪問し、交流を持っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様と相談したうえで皮膚科、眼科、歯科医などの受診を行っている。受診時は付き添い、指示を頂いている。	本人や家族の希望するかかりつけ医を確認し受診を支援している。協力医療機関と連携し、週1回の訪問看護や定期的な受診を支援している。専門科の受診時には、職員が同行している。また、家族の来訪時に受診結果を伝えている。来訪の少ない家族には、電話等で受診結果を報告するようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が来られ、その際介護職員が利用者様の健康チェックを報告し、早期治療に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは情報交換を行い、入院時にはサマリーなどを提供している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の進行具合により、関係医療機関との連携と、本人様と家族に重度化した場合の対応をお聞きしている。	契約時の段階で、終末期に関する事業所の方針等を説明している。利用者や家族の意向を確認したうえで、協力医療機関と連携して終末期ケアの実践に向け支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成しており、急変時は対応できるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て、避難誘導を行っているようにしている。	年2回、消防署の協力を得て、日中と夜間を想定した避難訓練を行っている。また、事業所は、水害時の避難所に指定されていることから、近隣の住民にも避難訓練への参加を呼びかけるなどして、平時から事業所を知ってもらえるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時はプライバシーを侵さないよう、配慮したケアを行っている。	職員は、日頃の利用者との関わりを通じて、一人ひとりへのさりげない声かけや誘導を心がけている。特に排泄の支援時には、利用者のプライバシーや自尊心に配慮した関わりに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉が苦手な方は「はい」「いいえ」の選択肢で希望をお聞きしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	柔軟な対応で、利用者様のペースにそよう気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出(リハビリ)時や入浴時の衣類選びを、ご自分で出来る利用者様は行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのメニューなどを取り入れ、食べる楽しみを大切に、ケアを行っている。	事業所では季節の食材を用い、職員が交代で食事をつくっている。利用者の身体状況に応じた食事形態で提供するようにしている。利用者と職員でテーブルを囲み、家庭的な雰囲気の中で会話を楽しみつつ食事をとっている。また、利用者は、テーブル拭きの手伝いをするなどして、一人ひとりのできることを自分の意思で行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は細かくチェックし、介護記録に記載して、健康状態を把握している。嚥下困難な利用者様は、とろみなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、義歯の方は夜間お預かりして洗浄消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行かれる方は、居室をトイレ近くに設け、ベッドの位置を変えるなど、最短距離で行けるようにしている。	事業所では、利用者一人ひとりの状態に応じた排泄支援を行っている。車椅子を使用している利用者や夜間の移動が困難な方には、ポータブルトイレを活用するようにしているが、日中と夜間をオムツで対応することもある。	利用者の転倒などのリスク回避等を主とした安全確保の理由から、オムツを活用している。トイレでの排泄の自立に向けた十分な支援を行っているとはいえないが、排泄チェック表の活用にも取り組み始めているため、今後はこれらの活用に加え、一人ひとりの力を引き出し「トイレで気持ちよく排泄する」ための工夫や意義を職員間で共有するなどして、サービスの質の向上に取り組まれるよう期待する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多く含んだ食事を提供している。水分補給にも気を付けている。排便チェックを行い、便秘を予防している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴できる体勢をとり、身体的状況により、特殊浴槽を活用している。本人の希望も配慮し入浴していただいている。	利用者の身体や精神状況に応じ、一人ひとりに寄り添った支援に努めている。職員は、利用者にゆっくりと時間をかけて、安心して入浴してもらえるよう配慮している。入浴を拒む利用者には、職員を替えて言葉かけを行うようにしている。また、入浴が困難な利用者には足浴なども取り入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく、起きていただき、夜間は安心して、休んでいただけるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスがないよう、2重チェックを行い、飲み込むまで確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に洗濯物を畳んだり、レクリエーションもしている。調理の盛り付けなども、可能な時に手伝ってもらっている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	堤防の散歩などで気分転換を図ったり、行事計画を立て、ハイウエイオアシスや近くの神社などに桜の花を見に行ったりしている。	事業所では、季節の花見等の外出を行っている。天候の良い日には、利用者一人ひとりに希望を聞いたうえで、近隣の堤防へ散歩に出かけたり、車で買い物に出かけたりしている。また、家族の協力を得たうえで、外食や一時帰宅等の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理のできる利用者様はご自分で管理し、利用料など支払ってもらっている。管理の難しい利用者は「預かり金」として家族様から預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて、電話をかけていただいている。利用者様が手紙を書かれた場合、代行で投函を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニバーサルデザインにより、利用者様が安全で安心して快適に利用できるような建物の設計になっております。	事業所では、多くの方が使いやすいようユニバーサルデザインの建物としている。共有空間には、利用者と職員で季節の飾りつけを行ったり、散歩で摘んだ花を花瓶に生けたりして居心地の良い空間づくりを行っている。利用者は、洗濯物をたたむなどして思い思いの場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールはゆったり過ごせるようになっており、窓越しから、花や木、菜園をみて、楽しんだり、ツバメの巣なども見られ感動されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビなどを持ち込んだり、写真を飾ったりと、自由に使える環境にしている。	入居時の段階で、本人や家族に説明し、利用者の好みの品を持ち込んでもらっている。利用者によっては、写真や作品等を壁面に飾っている方もいる。職員は、利用者の意向に応じて、居室内の飾りつけを手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活が快適に送れるよう、ベットの配置など考慮している。		